



知っていていいクスリの話

ADHDやASDと診断された子の中には、薬を服用している子がいます。保護者から薬について話題になることもあると思います。そこで薬に関する情報をまとめてみました。

① そもそも薬を用いる目的とは

薬は発達障がい自体を治すものではなく、ADHDでは不注意・多動性・衝動性の、ASDでは易刺激性(いしげきせい=些細なことに興奮・自傷他害等)の緩和に用いられます。服薬は治療のゴールではなく、治療の中核をなす教育的対応が成立しやすい(子どもが成功体験を得やすい)状態をつくることが目的です。それによって二次障がい併発の予防にも繋がります。

② 薬は体内でどんな役割を果たすか

脳内の神経細胞と神経細胞の間には僅かに隙間(シナプス間隙)があり、信号の送信側から受信側へ神経伝達物質(ドーパミン、ノルアドレナリン等)が伝わり脳の活動が成り立っています。ところが放出された神経伝達物質が送信側に過剰に再吸収されたり、受信側から漏れ出たりするなどによって必要な情報がうまく伝わらないと、特有の症状が表れます。薬は、特定の神経伝達物質が円滑に流れるように、無用な再吸収や漏出を抑えるなどの役割を果たします。

③ 使ってみないと“合う・合わない”は分からない

こればかりは個人差が大きく、効果てき面で副作用もほとんどない場合もあれば、副作用ばかりが強く出て効果が見られない場合まで様々です。服薬開始後は、学校での状態(具体的な事実)を保護者に伝え、次の診察時に伝えてもらいます。副作用の傾向は薬ごとに差がありますが、ほぼ共通して傾眠、不眠、食欲不振、吐き気、頭痛、倦怠感などが多く見られます。

④ 開始用量や増量のペースなど、服用には決まりがある

変化が感じられないと、「もっと増やしてもらえば」と思いがちですが、開始時の用量や増量の際の日数間隔と量、1日の最高用量は薬ごとに定められているため、処方通りの服用が大切です。インチュニブとリスパダールは、体重により用量が規定されています。

効果が表れるのにストラテラは1～3か月、インチュニブは1～2週間要します。

⑤ 処方される薬は

ADHDの薬は下表の4種類があり、症状などに応じて選択されます。ASDでは、易刺激性に対して主に下表の2種が処方されます。その上で効果や副作用の状況をもとに、必要に応じて変更や用量が調整されます。言うまでもありませんが、薬の必要性を判断するのは医師、服用を判断するのは保護者・本人です。学校(教師)は、医師や保護者の判断材料になり得る情報を提供することが重要な役割です。



適用	一般名	先発品の販売名	剤形(斜体は後発品のみ)	1日の服用回数 効果持続等	後発品
ADHDの 不注意 多動性 衝動性	メチルフェニデート	コンサータ	錠	1回・朝 約12時間	なし
	アトモキセチン	ストラテラ	カプセル 内用液 錠	2回 24時間	あり
	guanfacine	インチュニブ	錠	1回・就寝前など決められた時間(午前は避ける) 24時間	なし
	lisdexamfetamine dimesylate	ビバンセ	カプセル 錠	1回・朝 約10時間	あり
ASDの 易刺激性	アリピプラゾール	エビリファイ	錠 内用液 細粒	1回・用量により朝又は夜	あり
	risperidone	リスパダール	錠 内用液 細粒	1～2回	あり

■ コンサータとビバンセは中枢刺激剤で依存性が生じやすいため、乱用防止等のため、「ADHD適正流通管理システム」に登録の医師・薬剤師による処方・販売、登録した患者のみの服薬と規定されています。

■ ビバンセは他の3種の効果が薄い場合に処方されます。

■ 後発医薬品(ジェネリック)の名称は、一般名となります。

■ 錠剤には、口の中で容易に崩れるOD錠、噛み砕いて溶かすチュアブル錠の場合が含まれます。

担当：学校生活適応支援アドバイザー 飯山・大瀧
TEL 639-4392 / 支援要請は 639-4381 諸伏・石川